

JARL 全世界 10,000 局アワード 申請の注意点とノウハウ

2025.4.2

作成： JA0IAA 佐田 浩

●はじめに

昨年より JARL 全世界 10,000 アワードの申請準備をしていました。全日本 10000 局アワードで経験したノウハウをもとに、エクセルでシートを作成しましたが、ここに至るまでの取り組みの経過とコツを記しておきます。

現在、サンスポット上昇でコンディションは絶好です。今後、皆さんが申請される際に合理的かつ正確な申請書を作っていただくことを祈り、ご紹介します。

●まずは JARL のルール改正提案!?から始まった

1) 最大の問題は QSL リストのコールサインの並べ方でした。

従来の QSL コールサインの並べ方でまず悩みました。従来のルールでは『エンティティをプリフィックスのアルファベット順に並べ、エンティティ内はコールエリア別、アルファベット順に記入する。』とあります。

事例はこのようなもので、前身のよみうり全世界 10,000 局賞のルールを継承しています。

記入欄	△=ITU ゾーン	○=エンティティ		
AA1A	○N1AA	WA1ZZZ	AA3A	
:	:	:	:	
K1AA	W1AA	AA2A	WA3AAA	
:	:	:	:	
△K1ABC	W1AA	WA2AA		

JA では、コールサインは 1 エリアから始まり 0 エリアで終わります。さらに 2 文字サフィックスは AA から始まり ZZ まで、次に 3 文字サフィックスの AAA から始まり ZZZ で終わります。ところが、世界では全く異なります。

半世紀前(Hi)、アメリカンコールブックの DX 版を見ました。すると

- ・プリフィックスは数字から始まり、数字が終わったらアルファベット順に並ぶ
- ・プリフィックスの先頭文字が同じであれば、次の数字は 0 から始まり 9 で終わる
例： K0、K1、・・・、K9、そして KA0、KA1、・・・、KA9、KB0、KB1・・・という順に並ぶ
- ・サフィックスは文字数に関係なく A、AA、AAA、AB、ABA、ABB・・・という順番に並ぶ

というルール。何のことはない、エクセルと同じ順序です。

上記ルールは JA のコールサイン付与ルールから抜け出しておらず、整理に無駄なエネルギーを使うだけ、パソコンログが当たり前の時代に乗り遅れているな!!と感じました。

全日本 10,000 局の場合、国内 1 エリアあたり最少 500 局・最多 1,500 局という制約があります（現在も）。従って、「エリア 1 から 0」の局数が求められていたのです。

しかも『エンティティ内はコールエリア別』とありますが、複数のプリフィックスが存在した場合、どうするのか？も。

ご存じの通り、USA 本土には AA-AN、K、KA-KZ、N、NA-NZ、W、WA-WZ までのプリフィックスがあります。上記例だと、アメリカのみを連続してリストにする必要がある？ まとめるエンティティとは“K”の位置なのか“N”、“W”なのか・・・と。

前身アワードは全日本のルールをベースにして作成されたため、海外の実情を理解しないまま作られ、それを現実的にはマネージャーの「柔軟な運用」で対応していたのでしょう。「柔軟」と言えば聞こえは良いのですが、申請で不備と判断され作成し直しとなったら悲惨です。かつては手書きでしたし、今でもパソコンで手入力している方もいるでしょう。

この問題を考慮し、QSL リストの変更を提案しました。私の案で説明不足だった点を補足した JARL の公表例が以下のものでした。

記入欄	△=ITU ゾーン		○=エンティティ			
1A0KM	AA0A	AA1A	AA1ZZ	AA9ZZ	K0A	KZ9ZZ
2E0AB	AA0AG	AA1AB	AB1A	B0A	K0AF	LA1A
3C3CA	AA0AKA	AA1ABG	AB1ATA	B0AB		ON1AA
4X5ZZ	AA0KM	AA1B	AB1AUC	B1ABD	△K1ABC	
	AA0B	AA1BAA	AB1AX	B9X		
	AA0BAC	AA1BG		BA1A	KA9ABA	W0B
9Y4MM	AA0BR					WA1RL

エンティティ毎のエリア別局数に制約はありません。従って、コールサインを順番に並べれば良いだけです。

すっきりしました！…………ルール通りに整理・苦労していた方には「ご苦労様」と言わざるを得ません。

2) 次の問題は、ITU ゾーンの点です。

『「ITU ゾーン」リストに記入する局は、市町村名まで記入する。旧ソ連の局について OBLAST(REGION) ナンバーが判明しているものはこれを付記すること。』

えっ、市町村名までって？ よみうり全日本 10,000 から続くルールをそのまま書いてだけです。DX ペディションで市町村が書かれていることはあり得ません。もちろん南極も。8J1RL、「南極昭和村」と書くのでしょうか？

JARL の申請書では（グリッドロケータ GL 等）とあります。これも**ルールとは異なる『柔軟な運用』**です。

今は GL が主（古い QSL では緯度経度が記載されているものもありますが）、こちらのほうがはるかに実用的です。この箇所は削除を提案、受理されました。

以上 2 点の変更で、ルールがすっきりしました。

● QSL リストの作成

QSL リストは全日本 10,000 局アワードで作成したエクセルファイルを手直しました。

全日本の場合、以下の煩雑な作業が必要でした。

エリアを 1 から 0 まで並べ、かつサフィックスが 2 文字・3 文字の順番に並べる

1 エリアの最後に 7K1-7N4 を追加すること、7・8 から始まる局を各エリアの末尾に並べる

他エリアからの移動局は、移動したエリアの局も末尾に並べる

これらが不要になり、作業が簡単になりました。

但し、DX 特有の**移動エンティティが先にあるコールサイン**（FK/、W7/、KH8/等）が存在します。これは元のコールサインの順番に並べるべきで、注意しないと**同一人物がリストアップされる可能性があります**。

例： K6VHF、 HR9/K6VHF、 4L/K6VHF K6 の位置に HR9/K6VHF を並べる

ここは対策をしてあります。詳細は、QSL リストの作成マニュアルをご参照下さい。

● QSL のチェック

1) 基本的なルールは必ず守ること

JARL のアワード Q&A には、以下のように記載されています。

Q S L カードには、次の内容が記載されていなければなりません。

(1) 交信相手局のコールサイン

(2) 自局（QSL カードを発行する局）のコールサイン

(3) 交信年月日および時間

(4) 周波数（衛星通信の場合は、アップリンクおよびダウンリンクの周波数）

(5) 電波の型式（「SSB」「CW」という標記でも、「J3E」「A1A」という標記でもかまいません。）

(6) 了解度、信号強度、音調等

(7) 自局（QSL カードを発行する局）の運用場所

(8) 衛星通信の場合は、衛星の名称

しかし、ARRL の運用する LoTW には(6)がありません。

これも Q&A にあるのですが、LoTW は有効です。

『LoTW データの使用については、申請に使用する交信の了解度、信号強度、音調等がログで確認できる場合に使用できるようになりました。』

尚、JARLweb の右上に ENGLISH バージョンがあります。ここから JARL AWARD PROGRAM をクリックすると以下の文面が読めます。日本語訳して基本ルールに掲載したら、スッキリするのですが。

※ Note

◆ Please note that you don't need to send the QSL cards.

◆ eQSL ■■■ If you can print received eQSL, we can accept it.

◆ LoTW ■■■ We can accept LoTW confirmation as a QSL.

(assuming RST report or equivalent is implicitly included in the LoTW confirmation.)

(6)で RS が 55 だったが 59 と書いてある、というのは第三者がチェックするのは困難なので OK でしょう。しかし、CW の QSO なのに“59”とあるのは無効でしょう。**モードとレポートの形式が矛盾するのは NG** です。

私個人、**e-QSL.cc** で **FT8 モードなのに“599”となっている QSL を意外と多数受け取ります**。ログソフトからの転送でなく手動入力すると“599”が自動入力されるのです。また、ログにレポートが登録されないうちにアップロードしたのか、**レポートが空白の慌て者も時々Hi**。合わせて 150-200 枚に 1 枚はありますが、これは**訂正をお願いするか無効 QSL とすべき**です。ご理解していない方もいますが、これが JARL のルールです。

599 の自動入力は、JA のサポーターの方を通じて改善を要望していますが進展するか？微妙です。

●QSL の整理

1) 紙 QSL は QSL リスト順に並べます。1 枚ずつ不備が無いか確認して下さい。

2) eQSL は必ずダウンロードし、ファイルで保存します

第三者の証明をもらうためには、画像ファイルにして PC 上で保存しチェックできるようにします。ダウンロードソフトは、JA2BQX さんが作成された“eQSL2Thw”をおすすめします。(Windows)

アーカイブに保存されている eQSL を jpg 形式でダウンロード出来ます。

AC4	22Jan2023_2312_12M_FT8	2023/01/29 15:58
AC5	8Feb2023_0023_12M_FT8	2023/02/19 20:42
AC6	23Jan2023_0020_12M_FT8	2023/01/29 15:58
AC6	2025_01_19_0149_12M_FT8	2025/01/19 20:09
AC6	26Mar2023_0301_17M_FT8	2023/04/03 2:21
AC6	2024_03_02_0148_12M_FT8	2024/03/02 18:14
AC6	2023_09_24_0019_12M_FT8	2023/09/26 4:25
AC7	12Nov2022_0022_12M_FT8	2023/01/11 0:12
AC7	2024_09_16_2338_12M_FT8	2024/09/18 0:03
AC7	2023_11_08_0424_20M_FT8	2023/11/15 2:38
AC7	2023_11_14_0100_12M_FT8	2023/11/15 2:17
AC7	2Feb2023_0009_12M_FT8	2023/02/11 2:39
AC8	2024_03_19_2350_12M_FT8	2024/03/23 16:42
AC8	2023_10_07_0027_12M_FT8	2024/08/08 20:24
AC8	03Apr2023_0022_12M_FT8	2023/04/06 0:54
AC8	2024_03_21_0003_12M_FT8	2024/03/23 16:42

このソフトでは、以下のような形式でファイル名が自動的に付きます。

コールサイン_西暦 4 桁_月 2 桁_日 2 桁_時刻(UTC)4 桁_周波数_モード

従って、コールサインの順番並べが非常に簡単です！

(上記例では一部月日が異なるルールになっていますが、旧バージョンでダウンロードしたものです)

ダウンロードしたファイルをチェックし、不備が無いか確認して下さい。

3) LoTW は 1 枚ずつ画像キャプチャし、保存します。

LoTW は相互のアップロードデータをチェックし、合致した QSO のみ QSL として認められます。

JARL では eQSL の一つとして

『QSL カードの形になっていれば、そのデータがどういう経路で到達したものかについては関知しません。』

とあります。私は、QSL としていつでも確認・印刷可能な状態にすべきと判断しました。キャプチャ画像が最善と判断します。

Windows のキャプチャ機能を使い、「ペイント」で 1 枚ずつファイル名を付けて jpg ファイルで保存しました。(右の例)

ファイル名はコールサインだけで十分で、他の情報が無ければ eQSL と区別できます。

Station	
Call Sign	JA0IAA
DXCC	JAPAN (339)
CQ Zone	25
ITU Zone	45
Grid	PM97KM
Prefecture	Niigata-ken (08)
City / Gun / Ku	
Worked Station	
Worked	9A5W
DXCC	CROATIA (497)
CQ Zone	15
ITU Zone	28
Grid	JN85AU
Date/Time	
Mode	
Band	
Frequency	
QSL	2023-10-12 05:29:39
Record ID 1777459169 Received: 2023-10-07 17:25:18	

4) その他 eQSL も同様にダウンロードし、保存します。

メールで eQSL を送ってくるサービス (QSL CREATOR、最近は QSL WORLD など)、あるいは自分でダウンロードするサービス等が乱立しています。e-QSL.cc に比べれば少数ですが、適宜ファイル名を工夫してファイル保存します。

5) 2) から 4) で得た画像 QSL をファイル名でソートします。

今や電子 QSL の時代、膨大な数になると思います。私は先頭文字毎にフォルダを作成し整理しました。

フォルダ名は数字(1-9)、A、B、C、……、Z にしました。(Q はありませんから、この場合 26 個) eQSL の依存度次第ですね！

●QSL 証明者への依頼

QSL チェックは大変な作業です。自分はひたすら体力勝負！で頑張りますが、チェックは 2 名必要、特に 1 人は JARL 理事、地方本部長、支部長、社員、登録クラブの代表ですから、負担のかからないような配慮をしましょう。

私が行った方法を説明します。

1) ITU ゾーン・DXCC エンティティは、QSL を 1 ページ 4 枚収納できる透明フォルダ (合計最大 160 枚) を 3 個購入し、順番に並べてストックしました。eQSL・LoTW はハガキサイズでプリントしました。表裏を容易に確認出来ます。

ITU は 1 から 75 まで順番に並べ、未コンファームの箇所は白紙を挿入しました。

エンティティは ARRL のエンティティリストの順番に従って並べました。エンティティリストは CQ 誌の毎年 1 月の付録に掲載されています。USA は"K"、ベトナムは"3W"として並べます。

フランスの海外県はややこしいのでご注意を。FG/TO は FG、FK/TO は FK の位置に並べました。



2) その他の紙 QSL は、コールサイン順に並べました。

3) eQSL・LoTW のファイルは、**ファイルを手持ちの PC にコピーし、PC ごと渡して確認をお願いしました。**USB メモリにバックアップして手渡して証明をお願いしても良いでしょう。

●最後に

DX10,000 局もの QSL を整理・チェックするのは大変な労力を要します。今は従来からの紙 QSL の交換だけではなく、インターネットを通じた電子 QSL の時代です。紙 QSL の時代はコンファームに時間と費用(SAE+\$等)を要し、かつ回収率が悪かったのですが、今は 1 か月以内に 7 割以上はコンファーム出来るようになりました。

一方で、さまざまな電子 QSL の形式が届くため、ファイル管理に一苦労します。あれもこれも・・・と多くの電子 QSL にエントリーするのは疑問に感じます。送る側は一斉送信で楽ですが、受け取る側は整理が煩雑、場合によっては無視されるかも。私は、アップロードは e-QSL.cc と LoTW のみに限定し、他の電子 QSL システムは使いませんし、同じ方法で返信はしません。

QSL Info は QRZ.com から入手可能です。CQ 誌や DX news は、珍局の情報はあっても一般局はありません。ビューロ OK の局は、紙 QSL を送ってあげましょう。eQSL や LoTW のみ OK の局は、紙 QSL は送付しても相手に届きません。転送のロスを減らし、アワードを楽しみたいものです。